

物語文を読むひょう

名前

学級

ポイント

- 場面のじょう景を読み取りましょう。
- 登場人物の気持ちを読み取りましょう。

問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

《四人の子どもたちが、川のふちで遊んでいます。その中の音次郎くんが、くだもののかきを取り出し、ほかの三人に、川の中に一番長く入っていた人にこれをあげよう、と言いました。》

賞品のほうはまずもうしぶんなしとして、川のほうはどうであろう。
 1 も末に近いことだから、水はながれてはいない。けれどこの川ははばがせまいかわりに、あか土の川床かわどこがふかくえぐられていて、つめたい色にすんだ水がかなりふかくたたえられている。夏、水あびによくきたから、だいたいふかさのけんとうはつくのである。へ、そのあたりまでくるだろう。

三人はちよっと顔を見あわせて、どうしようと目で相談したが、すぐ、やったろかと、やはり目で話をまとめた。するともう森医院もりいんちの徳一くんが、ズボンのバンドをゆるめはじめた。なにかしがいのあるいたずらをするときのように、顔が 2 いる。ほらふきの兵太郎くんへいたろうくんは着物だったので、まずかばんをはずしてしまくりし、パンツをぬいだ。久助きゅうすけくんもおくれてはならぬと、ズボンをぬいでみどりと黄のまじった草の上にすてた。

ぬいでしまうと、へんに下がるくなくなった。風がす足にひえびえと感じられる。

徳一くんをせんとくに、川っぶちの草にすがりながら川の中へすべりおいた。ひと足いれると、もうひざっこぶしの上まで水がくるのである。「つめたいなア。」

足から身うちにあがってくる冷気が、しぜんに三人にいわせるのであった。

かきがほしいだけではなかった。いまじぶんおしりをまくって、水に

はいることがおもしろいのだった。そこで三人は、上で見ている音次郎くんにいわれるまでもなく、まん中あたりまではいっていった。①案のとおりだった。水はひたひたとはいあがってきて、久助くんのおへその一センチばかり下でとまった。

三人はむきあって立って、自分のへそをあらためてながめたり、人のへそをかんさつしたり、自分たちのごまのおかしさにくすぐすわらつたりした。しかしものをいうと、②歯がカチカチなってみように力が背中せなかにあつまるといふような気がした。

〈新美南吉「川」より〉

(1) 1 に入ることばとして最もふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 春 イ 夏 ウ 秋 エ 冬

(2) 2 に入ることばとして最もふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア あおざめて イ かがやいて
ウ こわばって エ ゆがんで

(3) ———線①「案のとおり」とは、「思った通り」という意味ですが、ここではどんなことが思った通りだったのですか。最もふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 三人とも、かきをほしがっていたこと。
イ 川に入ることが、おもしろかったこと。
ウ 三人が、川のまん中あたりまで進んだこと。
エ 川の深さが、久助くんのおへその高さ位だったこと。

(4) ———線②「歯がカチカチなってみように力が背中にあつまるといふ感じがした」とは、どういう様子を表していますか。次の文のように説明したとき、 に入るふさわしいことばを、本文中から二字で書きぬいて答えなさい。

〈川の水からのを身にしみて感じている様子。〉

物語文を読むこと

問題

かい答	アドバイス
<p style="text-align: right;">◆</p> <p>(1) ウ (2) イ (3) エ (4) 冷気</p>	<p style="text-align: right;">◆</p> <p>(1) 「賞品」がかきであることや、「夏、水あびによくきた」「みどりと黄のまじった草」「つめたいなア」などから考えましょう。</p> <p>(2) 「なにかしがいのあるいたずらをするときのように」から、徳<small>とく</small>一<small>い</small>くんが楽しそうな様子であることが読み取れます。</p> <p>(3) 本文の最初の方に、「(川の)ふかさのけんとうはつくのである。へ、そのあたりまでくるだろう」とあります。</p> <p>(4) ———線②は、三人が川の冷たさにふるえる様子を表しています。</p>